

和光

発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地

国立療養所 奄美和光園

電話 (0997) 52-6311 FAX (0997) 53-6230

令和 7 年 11 月 1 日
(2025)

第 139 号



■表紙	1	■第37回ハンセン病コ・メディカル学術集会(青森)に参加して	11
■鹿児島大学主催 夏季全国医学生離島実習	2	■令和7年度BLS研修を開催	12
■有屋町内会の八月踊り	3	■和光園災害訓練に参加して	13
■令和7年度七夕	4	■研修医紹介	14~17
■敬老祝賀会	5~7	■上方体協バレー大会 3位入賞	18
■第3回合同誕生会	8	■NST News Letter	19
■にぎやかに親睦ゲーム大会を開催	9	■診療統計	19
■第40回日本環境感染学会に参加し学んだこと	10	■新人紹介	20
		■人事異動・和光園日誌・編集後記	20

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



西古見 三連立神

基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます

鹿児島大学主催 夏季全国医学生離島実習

8月4日、夏季全国医学生離島実習の初日のスケジュールとして、医学生5名と引率者4名が施設見学にいらっしゃいました。

夏季全国医学生離島実習は、全国の医学生4～6年生を対象に、鹿児島大学地域医療学分野／離島へき地医療人育成センターが県内の各離島で実施しているもので、今回で第15回目を迎えたそうです。奄美での実習は一昨年も計画されていましたが、V字に迷走した台風6号の影響で直前に中止となってしまったそうで、今回は念願の奄美実習になったのではないかと思います。

実習者の募集案内に「離島地域（島嶼地域）は、制約された環境ではありますが、プライマリ・ケア、家庭医療だけでなく、先進的な医療を模索しながら行っており、医療の原点ともいえる人と人との繋がりを意識できるモデルとなる地域です。（中略）そのため、実習内容としては、住民との交流、行政との関りを通じて地域医療の姿を学んでもらいます。（中略）そこで働く医師は、これからの医療を支える医学生のロールモデルのひとつとして、大きなインパクトを与えてくれることと思います」とあるように、地域医療の現場において対象者を全人的に見ることができるようになる、フィールドワークを通して社会と医療の関わりについて学びコミュニティをケアする能力を獲得する、などが実習目標とされています。

近年は、より高度な医療を受けるために

近隣の医療機関を受診することが多くなりましたが、ハンセン病療養所は施設内で入所者が安心して生活するための環境や医療を整えており、完結したコミュニティです。また、かつて、感染対策を目的にハンセン病患者を療養所に強制収容し、治療薬が開発された後も1996年まで「らい予防法」の廃止に至らなかったこと、これは明らかに社会がハンセン病患者や回復者を全人的に見ようとしなかった事実です。鹿児島大学の井戸章雄学長や大脇哲洋医学部長が「ハンセン病の歴史を学び、施設を見学したり入所者の生の声を聴いたりすることは、医師（医学生）として重要なことだ」と捉えてくださり、奄美大島で行われる今回の離島実習のスケジュールに、急遽、当園の施設見学を組み込んでくださいました。

奄美大島には大学がありませんので、組織的な医学生の見学は初めてのことで、良い経験となったようです。また引率者にとっても施設見学は初めてのことで、大変勉強になったとのことをお言葉をいただきました。これを契機に1人でも多くの医学生がハンセン病療養所に関心を持っていただければと思います。今年度、人と人の繋がりからご縁をいただき実現した医学生の施設見学が、今後も続くことを願ってやみません。

園長 馬場 まゆみ



有屋町内会の八月踊りだりょっど〜

♪「きゅうの〜(今日の)ほこらしゃや〜」今年も8月23日、不自由者棟前広場で五穀豊穡に感謝する「八月踊り」が、有屋町内会踊り連によって催されました。

奄美では、子供の頃から聞きなれている伝統行事で、チデン(太鼓)と三味線・ハト笛でリズムを取ると、唄や踊りで始まり、浴衣姿の老若男女と子供たちの可愛い姿が彩りを添えていました。

入所者の方々も次々と参加され、ジーンと見入ったり、顔が綻んだり、手を動かして踊ったりと、様々な反応が観られました。また、踊り連の中には、以前に働いていた職員の方々もあり、入所者に声をかけて懐かしむ光景もありました。更に、「昔、父親が、ここで働いていて……」と話し掛ける方もいて、和光園と有屋の地域の方々との「つながり」も垣間見ることが出来ま

した。

さて、掛け合いの唄や踊りが繰り返される中、踊りも最高潮に達すると、曲も次第に速くなって、熱気も伝わり入所者・職員・踊り連の面々で楽しんでいました。入所者におかれましては、高齢化が進み参加人数も減少していますが、今回ベッドにて参加された入所者もあり、きっと心に響き伝わった事でしょう。そして、この時期の風物詩となる催しが少しでも長く継承される事と、入所者の楽しみが継続出来ることを願っています。

最後に暑い中、楽しい一時を催して頂いた有屋町内会の皆様、本当に有り難うございました。

不自由者棟 介護員 重 香代子





令和7年度 七夕

短冊に
願いを込めて

令和7年8月29日は旧暦の7月7日、その日から1週間の間、園内に七夕飾りを展示しました。奄美大島の多くの地域で旧暦でお盆をお迎えする風習が残っており、ご先祖様が玄関前の七夕飾りを目印に迷わず家に帰って来れるようにという意味があります。

園内には色とりどりの飾りと、皆さんの願いごとを記した短冊が残暑厳しい日差しと風に吹かれ、時折降る雨に流されていきました。七夕飾りは入所者の散歩コースでもある病棟前、不自由者棟前、売店前、朝日寮前に大きな笹を、また入所者の居室前には小さな笹を設置しました。短冊には「みんな一緒に百歳まで」「おいしいご飯が食

べられますように」などの願いごとが書かれており、入所者の思いにも触れることができました。風に揺れる七夕飾りを眺めながら、入所者が笑顔で過ごせますように、来年も入所者と共に七夕が迎えられるように、と思いを馳せました。

七夕飾りの作成に協力していただいた入所者及び職員、設置・撤去に参加していただいた医療サービス向上委員会に感謝申し上げます。

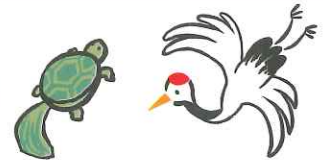
看護サービス委員会

病棟 介護長 藤田 加穂子





敬老祝賀会



令和7年9月11日(木)13:30、奄美和光園講堂にて、令和7年度敬老祝賀会が開催されました。この催しは、ご高齢の入所者の皆さんの長寿を祝い、敬意を表すとともに、余興等を通じて入所者、職員、そして地域の皆さんとの親睦を深めることを目的として、長年にわたり続けられてきた当園の四行大の行事の一つです。

長らくコロナ禍により縮小を余儀なくされていましたが、昨年度はコロナ以前と同様に来賓をお迎えしての開催が実現し、今年度も引き続き従来の規模で盛大に行われました。

祝賀会は、馬場園長の開会挨拶で幕を開け、奄美市長からの心温まる祝辞を頂き、代読させて頂きました。続いて、敬老の皆さんへの記念品贈呈が行われ、奄美市からの敬老祝金と当園からの記念品が入所者代表のKさんに手渡されました。Kさんからは感謝の言葉が聞かれ、会場は和やかな雰囲気になりました。式典の締めくくりとして、奄美和光園で長年歌い継がれてきた園歌を参加者全員で斉唱しました。

ここで司会も交代し、お待ちかねの余興の部へと移りました。トップバッターは職員による島唄です。お祝いの気持ちを込めた「朝花節」が披露され、その熟練した歌声に入所者の方から「上手つくあじゃが」という最大級のお褒めの言葉が寄せられ、余興の始まりを華やかに彩りました。

島唄に続き、入所者の皆さんによる多彩な余興が披露されました。Tさんによるカラオケ「十九の春」、Kさんによるカラオケ「二人は若い」、YさんとSさんによる浦島太郎の替え歌「じいさん・ばあさん」、

Hさんによるカラオケ「いつでも夢を」と続き、いずれも会場は大いに盛り上がりしました。

入所者余興の途中、リハビリテーション室職員による「ハイサイおねえさん」が披露され、最後に看護課職員による「上を向いて歩こう」が披露されました。余興に参加していた研修医が「いつまでもお元気に長生きしてください」と入所者の皆さんへメッセージを贈る心温まる一幕もあり、余興の部は盛会のうちに幕を閉じました。

余興に続いて祝賀会の締めくくりは、奄美のハレの日には欠かせない「総踊り」と「六調」です。参加者全員が一体となって輪になって踊り、会場の熱気は最高潮に達しました。

その後、事務長による締めの挨拶があり、令和7年度敬老祝賀会は無事にお開きとなりました。閉会後には、参加者全員で記念撮影を行い、楽しかった雰囲気が伝わる写真が出来上がりました。

今年度は新たに「和光農園」の利用者さんも含め、数多くの地域の皆さんをお招きでき、職員、入所者、地域が一体となって盛り上がることでより地域に開かれた療養所を体現できたように思います。また来年も職員、入所者、地域が一緒になってお祝いできるように願っています。敬老の皆さん、この度は本当におめでとうございました。

事務長補佐 白倉 克彦



敬老会 会場
職員手作りの飾り付けが、和やかな雰囲気をつくれます。



園長あいさつ



敬老記念品の贈呈



職員による 島唄



ハイサイおねえさん



園長も飛び入り(?) 参加!



上を向いて歩こう



看護課から敬老の皆さんへ
「長生きしんじょりよ」のメッセージ



締めめの六調



事務長の挨拶



参加者全員で記念撮影



第3回 合同誕生会

10月9日(木) あすなろホールにて、第3回合同誕生会を行いました。6月～11月生まれの方を対象として、園全体でお祝いを行いました。

園長の挨拶の後、職員みんなで『HAPPY BIRTH DAY』を歌いました。その後、イベントとして、お菓子釣り競争のレクリエーションを行いました。竹の竿を使って上手に釣り上げており、表情も楽しそうにされていたのが印象的でした。

今回は余興があり、園長伴奏のもと、ABCチームメンバーとリハビリスタッフが協力し『にじ』という歌を合唱し、途中には手話も取り入れました。サプライズで研修医も参加となりました。『にじ』という曲は、明るい未来に向かっていこう！という歌詞の内容であり、私自身が元気づけに聞く曲です。皆さんに気持ちが届いたでしょうか？

園長から今回お祝いの方に記念メダル

を、総看護師長から参加された皆さんに、職員が作成した革ストラップ(名前入り)のプレゼントを贈らせていただきました。最後に総看護師長から閉会の挨拶の後、記念撮影し終了となりました。

短い時間のイベントでしたが、楽しい時間を過ごせた事に感謝いたします。

今回、ABCチームが中心となり、企画運営を行いました。上手い出来ない面もありましたが、和光園の先輩方が行ってきたように、お祝いの時間を作れたことに喜びを感じています。次回は、12月～5月生まれの方をお祝いしたいと思います。ぜひ、楽しみにしてお待ちください。

作業療法士

ABCチームリーダー 二木 琢也



にぎやかに親睦ゲーム大会を開催

令和7年10月16日(木) あすなろホールにて、親睦ゲーム大会を開催しました。10月はハロウィン🎃ということで、参加した33名がそれぞれ被り物と鈴やタンバリンなどあらゆる鳴り物グッズを片手に楽しみました。

内容は、すももチーム(赤組)とばんじろうチーム(白組)に分かれ、一人3投のボーリング大会です。スロープの上からボールを転がし10本のピンを倒します。1投目2投目で10本倒れた場合は再度10本倒すのですが、入所者の転がしたボールが見事10本倒し19点を獲得するなど大活躍の一場面もあり、大いに盛り上がりました。入所者は大きめのボールですが、職員は野球ボールほどの小さな球なので、

みんな真剣な面持ちです。終始、チジン(島太鼓)が鳴り響き大運動会の様そうの中、ピンが倒れるたびに大きな歓声や拍手があり、たくさんの笑顔が見られました。

短時間でしたが、入所者及び職員の皆さんのご協力のおかげでスポーツの秋にふさわしい楽しいイベントとなりました。入所者の皆さんも久しぶりにお互いの笑顔を確認する事ができ、とても喜んでいらっしゃいました。ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

看護サービス委員

不自由者棟 介護員 平 正美



第40回 日本環境感染学会に参加し学んだこと

私は、感染管理認定看護師の資格を取得し今年で3年目となります。入所者を感染症から守ることを第一に日々活動しています。当園では初の感染分野の専門職であり、感染症やその対策は更新されていく情報取得が必要であるため、私は関連学会に積極的に参加し習得した学びを当園の感染対策に取り入れています。

今年度の学会では手指衛生の分かり易い学習教材を取得でき、当園でも看護師、介護員、リハビリ職員を対象とした学習会に早速使用し、手指消毒剤の使用量増加に役立てることが出来ました。また新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策については、学会では早い段階で「換気」の重要性が言われています。当園はハンセン療養所で入所者ケアは密接した距離で長時間関わるが多いため、マスク着用はもちろん、ケア中の「換気」を重視し日頃から対策しています。換気といっても一般病室や家庭の換気扇では、COVID-19ウイルスを含んだ空気を流すだけの換気量がなく、「窓を開けた自然換気の追加」が必要です。

医療機関で感染対策の基本となるのは、1996年にCDC（疾病対策予防センター）が提示している「標準予防策」「感染経路別予防策」です。2003年のSARSなど新興感染症の世界的流行後に、これらのガイドラインは改訂されていきます。近年のCOVID-19流行では「エアロゾル」という新たな感染経路が世の中に浸透しましたが、2024年、CDCは「飛沫・エアロゾル・空気」を1つの感染経路と捉える新ガイドライン（英文ドラフト版）を発表したようです。日本語版はまだですが、「換気」に関する内容が入ってくることを予測しています。

他にも学会での学びは沢山ありましたが、割愛させていただきます。これからも私は入所者や職員の皆さんを守るために、学びを続け皆さんに還元していきたいと思っています。

感染管理認定看護師 光村 真弓



第37回 ハンセン病コ・メディカル学術集会(青森)に参加して

今回の学会会場「ねぶたの家ワ・ラッセ」で私たちを出迎えてくれたのは、幅9メートル、奥行き約7メートル、高さ5メートル、重さ約4トンの大迫力、絢爛豪華なねぶた達でした。8月の青森ねぶた祭りでは、描かれている武者たちが「ラッセ、ラッセ」の跳人達の掛け声とともにさぞや威勢よく勇壮に青森の街を練り歩いたことでしょう。見たことのない盛大な祭りに思いを巡らせながら、学術集会が始まりました。

今回は、医療・看護・介護・ライフサポート・生活環境・労働環境などの問題を幅広く検討する目的で、津軽弁で「快適な」「心地よい」を意味する「あずましい」とテーマを設けたそうです。入所者のみならず働く職員も「あずましい」と思える環境をどのように整えるか、口演・ポスター発表において、看取り・認知症・看護の質向上・医療安全・多職種連携などの部門に分かれて発表を行い、討議が行われました。

私も緊張する中、多職種連携の部で一番目の発表となり、様々な質問もある中で他施設も共通の問題を抱えていることを実感しました。何よりも、これからの入所者の支援計画に大きなヒントをもらえたのは、今回の学術集会での大きな成果です。人生初の本州最北端の地でこのような機会を頂き感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

不自由者棟 看護師 長井 久美子



令和7年度 BLS研修を開催

今年も7月～10月の5回にわたり、全職員を対象としたBLS研修“和光園助け隊”が開催されました。“和光園助け隊”は、今年で11回目となり、昨年度より看護課以外の医療安全推進担当者もインストラクターとして研修を担当しています。

研修生は、コメディカルや委託職員も含めた54名の参加がありました。毎年参加して技術の振り返りをする職員、初めて参加する職員など習熟度は様々でしたが、全ての職員が「大切な人の命を守る」という目標に向かって一生懸命取り組む姿が見られました。特に、ターポリン担架搬送演習の際は、実際に研修生同士で搬送役と患者役を体験し合い、大変良い経験になったと

感じています。

また、相模原病院の研修医の先生方にも研修に参加して頂き、アドバイスを賜うことができました。研修終了後のアンケートでは「良い学びになった」「入所者を想定した研修で良かった」という意見と共に、多くの方から「来年も参加したい」という意見をいただき、インストラクターとしてやりがいを感じています。

今後も、新たに“和光園助け隊”となった研修生と共に、職員一丸となって努力して行きたいと思います。

治療棟 副看護師長 松元 くるみ



(BLS演習)



(ターポリン担架演習)



(窒息対応演習)



和光園災害訓練に参加して

令和7年10月30日(木)に、令和7年度の災害訓練を実施しました。今回の災害訓練のシナリオは、長雨が持続し、一般舎鶴寮から不自由者棟にかけて、建物の西にある山側斜面での土砂崩れの恐れを想定して、一般舎・不自由者棟・病棟の入所者を迅速に安全な場所(管理棟3階)に避難誘導することを目的として実施しました。

緊急非常放送で、土砂崩れの恐れを園全体に知らせ、災害対策本部が立ち上がり、看護課と搬送班の職員が連携し、一般舎・不自由者棟・病棟の模擬入所者を、車で迎えに行ったり、ストレッチャーやターポリ

ン担架で搬送したりと避難誘導しました。また、救護所となる3階に薬や医療機器などの必要物品を運び、トリアージを行うなど本番さながらの訓練となりました。

今回の訓練は平日昼間想定で行いましたので、多くの職員が参加し、改めて、災害対策を考えたり、役割分担を確認したりする良い機会になったと思います。最後に、訓練に協力いただいた職員の皆様、本当に、お疲れ様でした。

庶務班長 毛利 安則



研修医紹介

医師2年目の研修として、「地域医療研修」というカリキュラムがあります。今年も国立病院機構 相模原病院にて研修中の3名が、このカリキュラムの研修先として当園を選択してくださいました。

患者さんからも職員からも頼られる医師となるために必要なのは、医学の知識や技

術だけでなく、患者さんの想いに寄り添うこと、職員の話に耳を傾けることも重要です。3年目となる今年の研修でも各職場を回り、それぞれの職種がどのように入所者の皆さんに接しているのか、どのような思いで業務を行っているのかを体験し、理想とする医師像に必要な「何か」を見つけていただきたいと思います。

入所者の皆さん、職員の皆さん、よろしくお願いいたします。



8月の1か月間お世話になります、国立病院機構相模原病院初期臨床研修医の古迫 淳哉（ふるさこ じゅんや）です。出身は静岡県沼津市で大阪南部にある近畿大学を卒業しました。

奄美大島を訪れることは初めてなので、とても楽しみにしております。わからないことだらけなので、おすすめの場所や美味しいお店はもちろんのこと、お仕事に関してもご教授いただければ幸いです。研修中はご迷惑をおかけすること多々あるかと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。

相模原病院 研修医 古迫 淳哉



9月の1か月間お世話になります。臨床研修医の濱野 理貴（はまの まさき）です。出身は東京都ですが、親の転勤が多く、神奈川県、山口県、マレーシアなどに住んでいた時期もあります。大学は滋賀医科大学を卒業いたしました。趣味は、旅行、スノーボード、お酒を飲むことです。国外旅行は20か国ほど訪れたことがあり、スノーボードは冬になると毎週滑りに行っていた時期もあります。

鹿児島や奄美を訪れるのは初めてで、お勧めスポットなどありましたら教えていただければ幸いです。ハンセン病を取り巻く環境や歴史、入所者とのかわり方など、スタッフの皆様方から多くの学びを得ていきたいと考えております。

短い期間ではありますが、何卒宜しくお願い致します。

相模原病院 研修医 濱野 理貴



初めまして。10月から1か月間お世話になります、横内 俊希（よこうち しゅんき）と申します。出身地は神奈川県で、福島県立医科大学を卒業しました。

奄美を訪れるのは初めてであり、和光園の皆様と交流させていただけることを大変楽しみにしておりました。これまでハンセン病について学ぶ機会は限られておりましたが、今回の研修を通じて、入所者の方々と交流を重ねながら、より一層理解を深めたいと考えております。また、写真を撮ることも好きなため、奄美の雄大な自然を写真に収めたいと思っております。

短い期間ではございますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

相模原病院 研修医 横内 俊希

実習後記

奄美和光園で8月の1か月間、入所者さんの方々と職員の皆さんと一緒に過ごさせていただきました。誠にありがとうございました。

和光園での研修を通じて学んだことが2点ありました。1点目は、医療の役割について深く考えさせられました。これまで私は急性期病院で実習や研修を経験してきたため、医療の主な役割は「病気やけがを治療すること」にあると感じていました。しかし今回の研修を通じて、医療とは単に治療を行うだけでなく、入所者さんの生活全体を支え、安心して過ごしてもらうようにサポートすることでもあるのだと感じました。特に印象的だったのは、職員の皆さんが常に「入所者さんにとっての幸せは何か」「今求めているものは何か」を考えながら仕事をされていたことです。そしてその思いに応えるために、各専門職がそれぞれの立場からサービスを提供している姿を拝見させていただき、医療は一人ひとりの生活と心を大切にする営みであることを実感しました。

2点目は「チーム医療の大切さ」を再認識しました。相模原病院では上級医の先生方のご指導のもと業務にあたっていますが、こちらではコメディカルスタッフの方々からご指導を受ける機会をいただき、

普段はみることのないケアや、多職種ならではの視点や考え方に触れることができました。医師一人だけではどうしても限界があり、常に一人の患者さんを全面的に支えることは難しいからこそ、多職種の方々と協力とコミュニケーションが欠かせないのだと感じました。

この研修を通じて、「治す」だけでなく「支える」、そして「共に取り組む」医療の重要性を学ぶことができました。貴重な学びを与えてくださった奄美和光園の皆様へ心より感謝申し上げます。今後はこの経験を大切にし、知識や技術を磨きながら、多職種の方々と協力し合い、患者さんにとって最善の医療を届けられるよう努力していきたいです。1か月という短い期間でしたが、充実した研修となりました。職員の皆さん、入所者さん誠にありがとうございました。

相模原病院 研修医 古迫 淳哉



Photo by Shunki Yokouchi

奄美和光園での1か月の研修を終えて ●●●●●

「長生きしんしょりよ」

敬老祝賀会の出し物として、看護師の方々と一緒に参加させていただいた際に、上記の言葉で長寿をお祝いさせていただきました。入所者の方々も着物などを着用し、練習してきたカラオケを披露され、職員の方々も三味線や舞踏など工夫を凝らした余興を実演されていました。参加されていた職員OBや来賓の方々含め、園全体が一つになっているような印象を受けました。これも常日頃から「入所者の幸福」を考え、働いている職員の方々の賜物であると感じました。

この敬老祝賀会から数日後、誠に哀惜の念に堪えないのですが、入所者のお一人がお亡くなりになりました。私が9月頭に初めてこの方とお会いした際、もうほとんど言葉を発することができるような状態ではなかったのですが、自己紹介すると、「は」「ま」「の」と口を動かしてくださったことを覚えています。食事や水分もほとんど取れず小康状態が継続している際に、ご本人がやり残していることはないか、ご親族との繋がり、好きだった食べ物は、と最期まで入所者の幸せを思い、医師、看護師、介護職員、リハビリ、福祉、事務の方々などが一丸となって動く姿勢には大きな感銘を受けました。お亡くなりになる1週前に、ご本人が希望されていたお墓参りに私も同行させていただきましたが、わず

かでも一助となったならば幸いです。改めてお悔やみ申し上げます。

和光園での1か月の研修を経て、ハンセン病療養所の実態、職員の思い、多職種連携、離島医療など様々なことを学ばせて頂きました。急性期病院では中々経験できない、多職種が密に入所者に携わる関係性は、日々忙しい中で、流れ作業のように患者さんを捌いていくような生活を送っていた私たちが忘れてはならない姿勢であると感じました。

またプライベートでは、奄美の雄大な自然、海岸での夕日、マングローブなどに感動し、休日には与論島にも訪れ、透けるようなブルーの海でウミガメと泳いだりもさせていただきました。平日夕方に屋仁川の街に繰り出し、島料理を堪能し、黒糖焼酎でほろ酔いになりながら、和光トンネルを何度も歩いて戻っていったのは良い思い出です。

1か月という短い期間でしたが、ここで得た多くの経験を糧とし、今後医師として活かしていければと考えております。携わっていただいた方々、ご指導していただいた皆さん、本当にありがとうございました。

相模原病院 研修医 濱野 理貴



Photo by Shunki Yokouchi

実習後記

奄美和光園において、10月の1か月間という短い期間でしたが、地域研修として受け入れていただき、誠にありがとうございました。

和光園はハンセン病療養所として、入所者の方々の生活を長年にわたり支えてこられた施設です。普段の研修では急性期の患者さんを診ることが多いため、今回は入所者の方々やスタッフの皆様と関わる中で、ハンセン病に関わる医療や多職種連携、そして奄美大島という地域の医療について学ぶことを大きな目標にしておりました。

研修を通じてまず印象的だったのは、スタッフの皆様が入所者の方々に対して家族のように温かく接し、その方らしい人生を支えておられる姿です。入所者の方々とお話しする中で、皆様が私を温かく迎えてくださり、日々の診療の中で忘れがちな「人生に寄り添う医療」の大切さを改めて感じることができました。

また、様々な職種の方々の業務を見学させていただく機会にも恵まれました。これまでは医学的知識や技術の習得が中心でし

たが、他職種の視点から治療やケアを学ぶことで、医療全体をより多角的に理解することができ、視野が広がったと感じております。

週末にはお休みをいただき、奄美の自然や食事、文化を十分に堪能することができました。透明度の高い海や豊かな生態系に囲まれた奄美大島で、シュノーケリングやカヌー、金作原原生林のトレッキング、ナイトツアーなど、多くの貴重な体験をしました。特に奄美海洋展示館で見たかわいらしいウミガメが忘れられず、翌週にはシュノーケリングで実際に泳いでいる姿を見に行ってしまうほど、すっかり魅了されてしまいました。また、カメラを片手に雄大な景色を写真に収めることができ、忘れられない思い出になりました。

普段の生活圏を離れ、和光園で過ごした1か月は、医師としても一人の人間としてもかけがえのない経験となりました。短い間ですが、大変お世話になりました。奄美の美しい景色を再び見に訪れた際は、ぜひよろしくお願いいたします。

相模原病院 研修医 横内 俊希



Photo by Shunki Yokouchi

☆ 上方体協バレー大会 3位入賞 ☆



皆さんこんにちは！奄美の夏がやってきていますが、元気にお過ごしでしょうか？そんな暑い中、来る6月22日！数年ぶりに上方体協主催のバレーボール大会に和光園の精鋭部隊と出場してまいりました。和光園を皮切りに仲勝・浦上・有屋・朝日・大熊・鳩浜と上方の全地区が参加しました。

和光園チームは、試合に向け平日毎日練習する週や月曜・水曜・金曜週3回練習する時間を設け、朝野隊長を筆頭に練習に励んでまいりました。最初の頃は、ボールパスをするだけで腕にアザができたり痛みに耐えながら頑張りました。その中でも努力し続ける事で、取れなかったボールが上がったりそこから次のプレーに繋がったりと1人ひとりの成長が練習の合間でも多く見る事が出来ました。

試合では、

予選1試合目 v s 大熊 2-0 勝利

予選2試合目 v s 仲勝 1-2

フルセットで惜敗メンバーの頑張もあり、予選は2位通過で準決勝進出！！



準決勝の対戦相手は、去年優勝しておりバレー経験者が多く所属している有屋との対戦になりました。和光園も一生懸命チーム一丸となり立ち向かいましたが、ストレートで負け決勝進出を逃しました・・・(；ω；)ウゥ

1日の試合を通して、全員で和光園らしく楽しく1点1点を喜び、そして励ましながら戦えた事が日頃の練習の賜物だなと心から思いました！それと同時にこのメンバーとバレーする時間がなくなるという寂しさも押し寄せてきました。また日常に戻りますが、試合当日差し入れやお弁当準備など沢山の人の支えられ今年の和光園バレーを終了する事が出来て本当に良かったです！そして和光園バレーに参加させて頂いた職員の皆さんにも感謝申し上げます。入所者の皆さんも暑い中、体調を崩されないようご自愛下さい♡

不自由者棟 介護員 岩元 由衣



NST News Letter

No.35

皆さんは普段服用されるお薬が、食事との組み合わせが良くない場合があるのをご存じでしょうか？

お薬を使う上では、食生活にも注意することが必要です。今回はその一部と一緒に確認していきましょう。

①血圧のお薬の一部（アムロジピンなど）とグレープフルーツジュース

こちらはテレビでも時々取り上げられますね。通常お薬は体の中で酵素という分解担当の分子が働くことで、段々とお薬本来の成分が消失していきます。この酵素を邪魔するのがグレープフルーツジュースです。

「お薬が体内で消えづらくなれば、それだけ効果が強くなるから良いのでは？」と思われるかもしれませんが、しかし、実際の所は【効果が強く出る＝副作用が出る可能性が高まる】ことになります。製薬会社も酵素の働きまで事前に考慮に入れてお薬を作成しているのです。

もし、グレープフルーツジュースを飲まれる時、もしくは周りに飲む方がいらっしやった時には、「それ、お医者さんや薬剤師さんに確認した方がいいかもしれないよ？」とお声掛けをしてあげてくださいね。

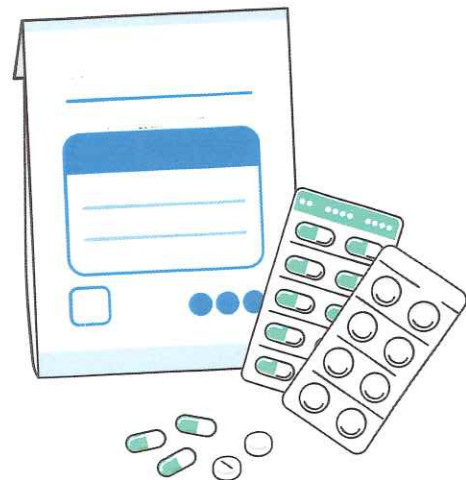
②抗生物質のお薬の一部（レボフロキサシンなど）と牛乳

抗生物質の中には、牛乳に含まれるカルシウムと結合することで腸から体内へ吸収されづらくなり、本来のお薬の効果が発揮できなくなります。

牛乳自体があまりお薬の服用には不向きですので、お水か白湯でお薬を服用しましょう。

お薬のことでわからないことがあれば、薬剤師へいつでもご相談くださいね。

薬剤師 杉町 代



令和7年度 診療統計

	外来診療					再掲			入院診療	分子標的薬	
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均(人)	診療実日数(日)	紫外線療法(件)	手術/生検(件)	フットケア(件)	延患者数(人)	導入	維持療法(累計)
9月	60	201	261	21.8	12	47	1	6	0	1	2
10月	35	181	216	24.0	9	41	4	6	0	3	3

新人紹介

調理助手 中 由香 (なか ゆか)

10月より給食係で調理助手として勤務させて頂いております、中由香です。少しでも皆様のお役に立てるよう、日々頑張りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



人事異動

(令和7年9月1日～令和7年10月31日)

R 7. 10. 1 中 由香 調理助手

採用 (期間業務職員)

和光園日誌

(令和7年9月1日～令和7年10月31日)

- R 7. 9. 11 敬老祝賀会
9. 18 園外ショッピング
9. 25 第36回アニマルセラピー
10. 3～4 第37回ハンセン病コ・メディカル学術集会 (青森)
10. 9 合同誕生会
10. 16 親睦ゲーム大会
10. 23 県立大島病院医師・研修医来園 (見学)
10. 23 園外ショッピング
10. 29 第37回アニマルセラピー
10. 30 災害訓練
10. 30 ハロウィン

編集後記

さて、今年のカレンダーも残すところあと2枚となり、何となく気ぜわしい気持ちになる季節になりました。年末に向けて忙しくなるこの時期ですが、体調を崩しやすい季節でもあります。手洗いうがいをこまめに行い、十分な睡眠と栄養を摂って、健やかな毎日をお過ごしください。

また、年末にかけて当園では、皆さまに少しでも楽しんでいただけるよう、様々なイベントを企画しております。ぜひお気軽にご参加ください。

編集委員 井上 進